

# コアコンピタンスを駆使した挑戦の歴史

4つの源流製品である「絶縁ワニス」「積層板」「絶縁ガイシ」「カーボンブラシ」を通して蓄積された有機・無機化学にまたがる深いノウハウが、日立化成のコアコンピタンス(基盤技術)を築き、それらを複合・融合させることで、数々の製品を生み出してきました。



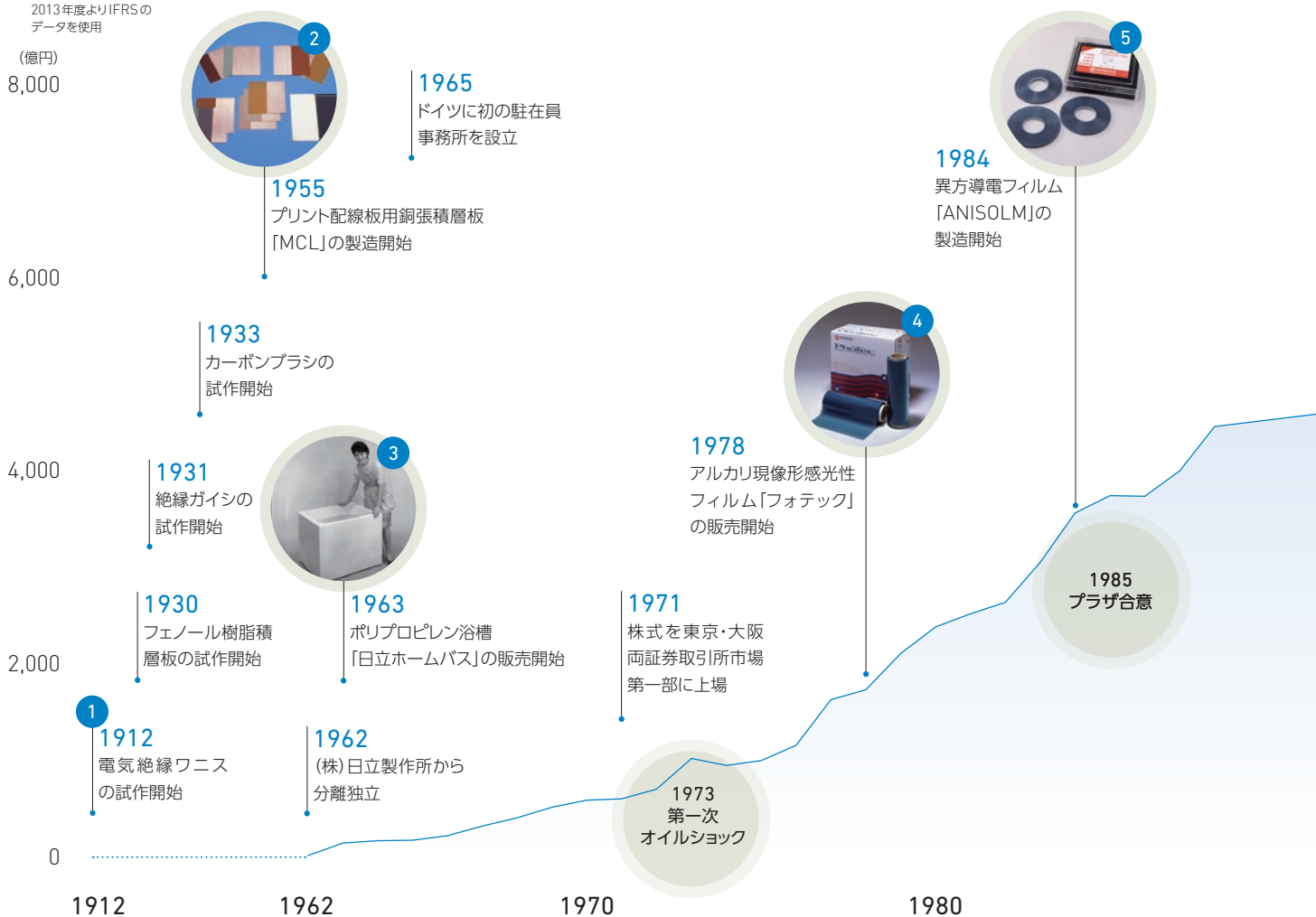
コアコンピタンス  
(基盤技術)

機能を生み出す  
材料技術  
求められる機能を  
実現する技術



製品に仕上げる  
プロセス技術  
製品を無駄なく  
効率的に  
製造する技術  
ニーズを翻訳する  
評価技術  
的確なデータ分析  
により次の一手を  
導き出す技術

— : 売上収益  
注: 1977年度より連結  
2013年度よりIFRSの  
データを使用



時代の社会課題に  
応えつづけた革新的な製品  
(年表①～⑪)

- ① モーター用絶縁ワニスの初の国産化に向け研究を開始。1974年には天然樹脂を含むワニスの開発に成功。
- ② 銅線のはんだ付けに代わる「印刷配線法」用に開発。電子回路の大量生産が可能となり、テレビ普及に貢献。
- ③ 木製が主流だった中、日本で初めてプラスチック浴槽の大量生産に成功。家庭へのプラスチック浴槽普及に貢献。
- ④ 電子回路製造時の環境対応が求められる時代を予見し、無溶剤形の製品を他社に先駆けて実現。
- ⑤ 液晶画面において、ミクロン単位での配線一括接続が実現。高画質な液晶画面の大量生産が可能となり、用途が拡大した。
- ⑥ 半導体のリフローはんだ付け工程での、熱による封止材ひび割れ問題を技術で解決。電子機器の信頼性を高めた。
- ⑦ 充電の頻度を減らす、大容量の人造黒鉛を開発。天然黒鉛からの転換が進み、携帯端末の利便性に貢献。
- ⑧ 研磨しながら自己崩壊する独自の酸化セリウム粒子を開発し、半導体高密度化を実現。廃棄物も大幅に削減。
- ⑨ 金属製だったバックドアの樹脂化に日本で初めて成功。軽量化はもちろん、デザインの自由度を飛躍的に高めた。
- ⑩ 1回の採血で多項目のアレルゲンを同時に検査可能。アレルギー疾患の診断を助け、患者のQOL向上に貢献。
- ⑪ 不規則で頻繁な充放電でも長持ちする鉛蓄電池を開発。日本初の出力変動緩和型風力発電所の実現に貢献。



日立化成グループの歴史は[日立化成ウェブサイト](#)▶  
[日立化成について](#)▶[日立化成50年の歩み](#)よりご覧いただけます。

